

創造
と
協調

ストリートダンス人気が発火点

ダンスは世界最古のアートであり「ミニ・ミニ・ミニ」と言われている。ダンスの起源は主に3つ、祈禱の意味合いをルーツに持つアフリカンダンス、社会秩序や国家の威信を表わすポリネシア諸島のダンス、王族のお宮に入り込むダンサーが物語を綴るヨーロッパのダンス。ダンスは言語より以前の原始的なコミュニケーション方法であり、最古のアートフォームであったと言われる。

いま学校教育が見直されているという。ネット社会や検索行動により、「知識」よりも



「知恵」が求められている社会に急速的に変化した現代。知っていることは皆平等。それらをどう選択し、どう組み合わせ、新しいアイデアを生み出すかという、イマジネーションやクリエイティブの能力がますます求められる時代になったのだ。そして、そのアイデアを的確に口滑に伝える力もコミュニケーション能力を持った人材を今の企業は欲している。クリエイティブも「ミニ・ミニ・ミニ」コミュニケーションでさまざまな情報を取得し続け、SNSでほとんどのコミュニケーションを済ませる現代社会で、果たして若者にそんな能力が身に付くのだろうか。

コラム #4

そこで現在、学校教育の中で授業や部活の分野でダンスが取り入れられ、盛んになっているのは時代の必然と言えるかもしれない。もしかしたら人間社会の本能的な「揺り返し」なのだろうか。ダンス、そしてアート。これからの教育に必要な、これからの未来を生き抜く「力」が、極めて原始的な行為の中に潜んでいる、というわけだ。ある教育者も「これからの学校教育にはダンスとアートの積極的な導入が必要である」と説いているという。何も学生全員をダンサーや芸術家にするというわけではない。ダンスを考え、アートを意識する行為が、若者にクリエイティブな能力を育てる基礎を作るとのことだ。

ダンス部の状況を見ると、練習や振り付けを自分たちで考えているという部活は意外なほど多い。時折、外部のコーチやOB・OGが指導やチェックにあたるのみで、部活の一つの目的である「自主性」を育てるには、あまり外の力に頼らないほうがいいという方針



の顧問が多いためだ。まず経験者がダンサーとなり、練習方法や振り付けを考える。作品にテーマを決めた場合は、全員でアイデアを出し合う。曲は決れば、ダンススタイルはこつ、構成はこつ、衣装はこのイメージ……というように、ダンスとその作品は、さまざまな要素のアイデアとその組み合わせのバラエティによって左右される。振り付けは良くても衣装が、曲とダンスのイメージが……、というようなダンスの悪さは、皮肉にも高校ダンス部の作のひとつの特徴でもある。よく言われるように、キッズダンスはプロダンサーが振り付けにあたるために作品の完成度が高い。そして中学生になると、自分たちで振り付ける場合が多いために、作品の完成度は下がる。しかし、後者は「考える」行為、考える「自由」を得ている時点で、クリエイティブのスタートラインに立っているとも言えるだろう。自分たちで振り付けをやっているか否かは、筆者がコンテンツで審